

膠原



NO 16

報告

☆昭和四十八年十一月十一日
場所 持田製菓 九階

□出席者名

- 浅川瑞穂先生 (各市大病院オニ内科)
- 水野信行 (各市大病院皮膚科)
- 加藤十益 (長久手 加藤医院)
- 大島元子 (愛知県難病連代表)
- 太田昭夫代表 (愛知県持定疾患係)
- 首藤友彦代表 (愛知県衛生局 深保健課長)

愛知県支部の總會

昨日の雨もあがり、会場には四下名
 近くの患者さん達で、緊張している。
 本都を代表して、支那の皆様の
 実態、地域医療の問題等、少いでも
 勉強になると思ひ、参加致しました。
 患者さんの頼りは、公費負担もさること
 とながら、私の病氣は、どうしたう
 なまらぬ、病氣を早くなまし、健康体
 になりたい。

人として生れ、しあわせを得たい。
 患者さんの顔、発言には、人間性の問題
 が、にじみ出ています。

こうげん愛知の表面に
 喜ぶために生れてきました。
 笑うための生れてきました。
 楽しむために生れてきました。
 わたくしたちは……

これは愛知支部長の百田さんの患者として
 誠の心で卒直に表した言葉ですが
 私の心の甲にズシン……としみ通り
 きました。

難病に愛の子、困りの子、医学の子、

これは愛知県、難病連のスローガンですが
 人間の原質にたつて、病氣を考へ、
 よりよい行政の指導、医学の恩恵を得て
 一日も早く、難病救済の途のあがる解
 汗顔らし、又お達小せな田体ひすの
 地域が皆味と連携し活動致したいと
 思います。
 (支部總會に出席して 河西)

（紹介） 全国済病友の会愛知県支部

難病連帯会の

「愛の第一歩運動」について

妙な例えたが、會社國家に将兵慰問がある。なら、福社國家に患者慰問があつて当然。そこで「愛の第一歩運動」が起つた。だが、難病団体で運動するのには無理。それらを、南いた坂々木五郎さん（愛知縣商組合事業部長）が蘇組合に註を出してくれた。

組合では山田兼生理事長はじめ多くの方が大賛成。そこで蘇組合員が一丸となつて「愛の第一歩運動推進會」を一年に引き受けることになつた。

泉下午六百五十の蘇産さんに色紙を準備し一般市民の方々が一枚五十枚出して、色紙に連帯会をなくさぬ書紙を書き、これを蘇組合に集められた。昭和四十八年五月二十四日、袋足以来二カ月は、間に一、四、所、夜の色紙が出た。色紙製造元の京都の中村宗孝さんの御好意も忘れられ、ないところ、同集された色紙を見て、難病の患者さんが云つた。この色紙を、蘇組合の一人一人には出来ぬ。

それで最初の色紙贈呈は、名古屋市立特別老人ホーム厚生院行きとなつた。

山本富士子さんや、谷幹一さんの「第一歩」横綱、北の富士の手形、その他一般市民や小菅生の色紙などに、お年寄りは大喜び。東海ラゲオのサニサンモーニングで、天野鎮雄さんが披露された。若倉の主婦の方、この「第一歩運動」の呼びかけも合流し「愛の第一歩運動」善意の輪は、今月も大きく広がつてゆく。よろしくお願いいたします。



十一月の初旬のある日、一通の封書が華務局の郵便物の中にあつた。この封書の全文を、御紹介しませう。

謹啓

時下益々御清祥のことと拝察申上ます。先般、再中り子、永眠に際しまして、御下重なる御平詞、並に御供物を賜り、御芳情の程ありがたく厚く御礼申上げます。本日、茲、果院釈妙清大姉、上へ日忌法要を、御禮がました。大旨御の御答に替えて左記へ金巻封書贈とせて

戴きましたので 御諒承いただければ幸いに存じます。

一、厚生省公衆衛生局難病対策課 (膠原病プロジェクトチーム)

二、全国膠原病友の会

新しく拜趨の上御礼申し上げます。ご希望がございりますが、郵送から書中をもちて御挨拶申し上げます。

敬 具

秋風 影ぞさみしき 百合の花
しおれし のちもとわに匂えや

昭和四十八年十月十一日

宮崎 明

この外に別紙に園林の病歴が書れておりました。

先般、私の専ゆり子が膠原病にて永眠いたしました。昭和二十四年七月生れ (24才) 以下簡単に病歴を記します。

四十五年三月頃

四十六年六月

四十七年十二月

四十八年二月

(膠原病と診断される)

四十八年六月

四十八年六月末

四十八年十一月

四十八年八月二十九日

指先が冷たくなるが、特に支障なし。

出産、出産前に足がむくんだが、妊娠中毒性とは云われない。

漢方薬、ハリ、血泉等の治療を転々とする。

尿に蛋白が多く出る。尿にけり、それ迄治療を受けていた。

(都立大入保病院に入院) 腎主検……慶応病院本間教授にみていただく

退院、この頃は、薬も減り、比較的順調である。

悪化し再入院す。

都立大入保病院尿が去す、蛋白多し、腹部ふくれる。

慶応病院へ轉す

昭和四十八年九月
初め
全身に内出血の跡を紅斑が
生じ歩行も困難になり
尿が少なくなる

昭和四十八年九月
七日
朝より血圧が急に下り
親戚一同呼び集りせりし

同日二時一分 死せ

死因……………SLE 兼強皮症

膠原に好する、私、認識もせく、治療も
長くかかるものと思つていました、が、急激
に悪化し以上の存を結果です。

別便にて金一〇〇円を郵送らせて戴きま
す。とうきび皆縁で有効に御活用いただけ
れば、幸になじます。

言 崎 明

御家族の御了解を得て、御手紙、お病歴と
掲載させて頂いたたきました。ゆり子さんの
御冥福を祈りました。反の金一〇〇円を郵送
して戴き、若き御存に捧げた詩
は人とうに感銘いたしました。

☆
あるお薬のほん



三上利子(代理)

前書が免下せり。
取急を、お頼り申し上げます。私は全身エリ
トマトーデスが再発し、九月十一日から
弘前大学附属病院大池内科に入院申す、が

病状が悪化しくなく、主治医から「アルブミン
の注射をしたいのだが、当地では辛に入ら
ないのでもし知り合いの所で辛に入つた
ら、教えてもらいたい旨、詐エホまりました。

ついではこの薬品が貴方、会の方で、特別
のルートがあつて辛に入れることが、出来
ないものが、お伺いするとともに、本来る
ことでしたら、五本でも十本でも、抑あつ
せんを、お頼り申し上げます。私も、八方
辛をつくしました。全部駄目でした。

一〇月二八日

何かとおたが、いいことと存じますが、よろ
しく御頼り申し上げます。

この採分御手紙が参ったが十一月二日。事務各の寺山さんより、河西さんとうしよとの事、この「アルブミン」なる薬、私は金々わからず、きいたこともない

この日、私達管委員の皆様が勤王始めたので、この患者さん、為にどうして、お薬を探して、一刻も早く、お薬を送つてあげよう、患者さんの要請にこたえてあげよう

いかに此の薬は大変高価な薬で、血液より採取する、持別の薬で、薬にくわしくない、私達は、大変なより、諸先生等と相談し、両主不良性貧血の会長、野島さんに理田を話し、後助を求めました。

野島さん、大奮闘により、やっとの事で五本入手することが出ましました。が、こんどはこの薬と運搬するのには、ハタと困りました。

これ、四度から五度の採分をして、この薬を、青森県の弘前大学附属病院まで送らねばなりません。私達はこれには、まじりませんでした。この時、天のたすけが、芥末務部長の佐藤さんの知人、出版輸送社の常務さん、清田氏の紹介があり、このお薬は、魚を釣るアイスホフスの中に入り、

多くの人達の、愛の手により、このお薬を、一日千秋の思いでまわつてくれる、弘前市の病院に、不厚に、とどけられたので、

三上利子(代理)

當座では、昨夜来うつすらと雪景色に、暗く長い冬の到来となりました。

御地では如何でしょうか。とこうで、この度は、非常なめんどうなことをお頼りいたし、まして、河西採、初め佐藤採、その他多くの方々に大変、御迷惑をおかけいたしました。深くお詫び申し上げます。

お陰様で、お送りいたした法則を、いま、食欲も大いに進み、程、元氣になり、昨今は、眠りなりました。一時は目を閉じ、口をきくこともでき、状態でした。どうなることかと心配したのですが、此の採の暖かい御配慮により、どうにか回復のきこえが、お返して来た採分、昨今です。ほんとうにありがとうございます。これからも、いろいろと波があると思

ますが、どうかお見すてなく、もし今右も
入平の機会がございましてならば、御あつせ
んを御願いします。

友の会が、今后も会員の命を守るために
益々 御登展を續けられます御 御祈念い
たし、まして、お礼のことばに代えさせて
戴きます下、

十一月十九日

各運営委の比皆、又、出版輸送所の清田さ
ほんとに御協力ありがとうございました。



一九四八年 昭和四十八年

歳末千ヤリテイニヨ

この二ヨも、無事に終了致しました。
皆様の御協力により、全前二百九枚賣れ
ました。なかひし、難病を救ふ医師の会の
福山先生、又、貴族の会員である、飯田さ
等、多くの方々の善意により、達成出来
ました。ありがとうございます。

(なほ、賣上金の一部が、反々会にまします、
運営費の一部にあてさせて戴きたいと
思います。)

事務長 寺山 之文



埼玉支部 五保田 かし子

膠原病の講演を聞く会

十一月十四日、川口市立青年会館

川口医師会長 小島 五六
川口衛生部長 天野 最典

多様化する医療施策に具体的にとり
くむ為、医療問題関係者の一層の理解
を得る為、各種特定疾患のうち、全身
エリトマトーデスを含む膠原病と
とりあり、斯界の权威がある塩川慶一
先生と招いて講演会を開催した。
以上

十一月五日

共産党支部にて 共産党都
議員と懇談

十一月八日

東京都議会社会党控室にて
都議会議員と懇談

十一月八日

順天堂に於て 膠原病及の会
定例会談

十一月二十四日

埼玉会館に於て 医療、生活、
相談と公費負担に関する集會

十二月一日

全難連、東難連の定例会談

十二月三日

厚生省にて難病連と日患同盟
と合同陳情

十二月二十八日

難病連と日患同盟と合同
反省会

後記



今度の膠原十六号は、膠原の持集号の編集
と重なり、大変遅くなり、会員の皆様に
大変迷惑をかけたことを、深く
御詫び申し上げます。

二月の会員の皆様の御年賀ハガキで激励
されたり、会報は私達地方の会員の心の
よりどころなのだから、とくれば困る
と云ふ、御叱りをいただき、ほんとは慚愧
に堪えません。二月月に一回の会報ですの
で、今後をくれぬ様、適張だと思ひます。

私事の泣きごとの大変受け入ります。
十二月に十六号の予定をしてをりましたか
皆様の御存知の様に、難病連、反の会
陳情、等、色々諸事多く、その上
一人前本業の方もいたさぬばかりませ
んで、愚痴を申しほんとは申し訳ない。

十二月から正月の休日を利用して、編集委
員の方々にお骨折りをお願いいたします。

最後のまとめが、出来ました。ですが、お見
御存知の様に、初期の予算の二倍以上の
印刷費の高騰、私達も大変困つてをり
ます。諸先生、又会員の皆様の御投書
下さいましたものを、如何に皆様に傳
えしようかと、ひすから眞等は一さい
両載せず、体裁にこだわらず、本に
致したいと思ひます。この様なわけで
宜敷く御願致します。

(河西)

会員の皆様に申し上げます。
。難病生活、医療相談、体験記、詩歌
其の他なんでも結構です。で事務局
まで御送り下さい。

○膠原病手帳は御利用になつてますか？
入院、通院、主治医にそのつど記入して
もらつて下さい。お医者さまは必ず協カ
して下さると思ひます。万一の際に大変
役にたつと思ひます。

